

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる知恵をもって社会でリーダーシップを発揮する生徒 ・自ら問いを立て「探究」する生徒 ・心に故郷を抱き、世界を見据える生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い授業と「探究」する学びの提供 ・社会や自然とつながる多様な学びの場の提供 ・一人一人が輝き、仲間とつくる感動の場の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力と基本的な生活習慣を身に付けた生徒 ・志をもって自分を伸ばそうとする生徒 ・大学進学を目指す生徒

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「ICTを利用した学習活動や共同的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている」では昨年度と比べて21%ほど評価が良くなっている。学習指導の評価では全体的にもDの評価をする生徒が格段に減少している。出席停止になっている生徒に対してのオンライン支援。多くの教員による端末を利用した授業の改善がこの評価につながっていると考えられる。 ・「前年までの教育活動の成果を活かしながら質的改善や向上を目指している」ではわからないとの評価が増加している。学習活動の動きがまだまだ浸透していない。生徒の主体的な学びを促す一端としてICTを効果的に利用したい。 		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ICT機器を活用した授業の改善 ◇生徒の主体的な学習活動の醸成		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT担当・探究企画部と連携を図り、ICTを活用した授業研究の推進。 ・他分掌との情報共有によりICTコンテンツを積極的に利用した学習活動の推進 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) ICT利用のための教員のスキルアップとともに、教材や指導法の改善を図る (2) ICTを活用しながら生徒の自主的な学びを促す指導	(1) ICTを効果的に用いた指導法の改善により生徒の主体的で深い学びが実現できる。 (2) ICTを活用することによる学習の効率と、それらを探究活動へ活かすことができる。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用に係る公開授業の実施によるスキルアップ ・教科内での教材の開発とデジタル資料での共有化 	① ICTを活用した授業展開ができたか ② 教科内での教材の開発と蓄積、他教科との情報交換ができているか	(A) B C D A (B) C D	
12 成果	○ICTを活用した授業を校内外の教員に公開する機会を設けるなど、職員の研修機会を設定し、スキルアップや技術の共有などを図りICTを活用した授業への取組が充実した。 ・多くの教員がICTを活用した効果的な授業の実践に取り組んだ。 ○タブレットを用いた発表や、意見交流の場が多く見られた。 ▲ICT機器の活用が多く場面で見られるようになったが、それによって生徒の学力が向上しているのか、主体的に学ぶ力がついているのか検証する必要がある。		総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台のタブレットの配備を活かし、生徒の学習の理解につながるような授業方法、教材作成、活 		

用方法等について、校内研修、又は近隣の学校との実践事例などの交流を通して、教員のスキルアップを図り授業改善につなげる。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月10日

【意見・要望・評価等】

- ・タブレットの操作だけでは深い思考はない。タブレットで作業時間等の短縮に使い、浮いた時間で考える力を育む時間に充てるなど、思考力をどう付けていくのかを考えてほしい。
- ・ICTをツールとしてどう使うのか、目的をもって使ってもらいたい。